



袂姿の年男・年女の檀信徒さんたちが威勢良く豆をまきました。

# 新編

復刊第二号  
2008年2月  
身延別院発行  
〒103-0001  
東京都中央区  
日本橋小伝馬町3-2  
Tel 03-3661-3996  
Fax 03-3663-2766

## 節分

### にぎやかに追儺式

身延別院の追儺式(ついなしき、豆まき)が二月三日に行われました。節分の日に毎年行われている恒例の行事で、年男・年女の檀信徒さんが本堂から境内の参詣者に向かって、袋詰めにした豆を元気にまきました。

節分はもともと、二十四節気の気候が移り変わる立春、立夏、立秋、立冬の前日のことを言いました。しかし、次第に春だけに用いられるようになり、現在では立春の前日のみを指すようになっていきます。これは二月の節分が年の始めの前日、つまり一年の境であることと、気候が冬から春に映る時節であることから、特別な意味を持つて考えられたためです。節分は、中国から伝来したものです。豆をまいて鬼を追い払う習わしも、中国の邪気(鬼)払いからきていると言われています。

今年の追儺式は日曜日にあたっていたため、例年ほどにはOLや会社員が集まらないのではないかと心配がありました。当日は朝からみぞれまじりの雪。例年にならない天候でしたが、豆まきの時刻までにはたくさん参詣者が堂内に集まり、にぎやかに豆まきが行われました。境内では豆拾いに集まった人々が一斉にまかれた豆や福銭、タオルなどを夢中になってキャッチしていました。用意した七斗分の大豆も数分間でなくなつたことから盛況ぶりがうかがえました。この後、本堂では年男・年女の檀信徒さんらを中心に豪華景品の福引が行われ、楽しいひとときを過ごしました。また、健やかな一年を過ごせるように願いを込めた御札・破魔矢・開運熊手が参加者全員に手渡されました。



第二回 千葉・日蓮寺

日蓮聖人の息遣いが！

「御首題をいただく旅」は今回から、私の印象に残った日蓮宗のお寺を紹介していきます。千葉県鴨川市(旧・天津小湊町)の岩高山日蓮寺をご存知でしょうか。

大本山・誕生寺の参拝を終えてJR小湊駅方面に戻る際、最初の交差点があります。その交差点名は「日蓮」という名称がついています。「おお、さすが！日蓮聖人の生誕の地！」と驚いたものです。この「日蓮」交差点で国道128号線を渡り、山側に進んでいくと日蓮寺の入口に到着します。やがて木立がうつそうと生い茂る細い山道になります。初めて一人で訪ねた時は、「この先に本当にお寺があるのかなあ」と、ちょっと不安になるほどでした。

このお寺は「綿帽子の霊跡」として知られています。文永元年(一二六三年)十一月十

一日の小松原法難で、日蓮聖人はひん死の重傷を負いました。寺伝によると、この地に逃げ込んだ聖人は、湧き水で額の傷を洗い、洞窟にご避難されました。そして読経しながら岩砂を手に取り、傷につけると、不思議な効により傷の痛みが消え、血も止まったそうです(「血止めの霊砂」と呼ばれています)。

翌朝、お市という女性が洞窟の聖人を見つけ、自分がかぶっていた綿頭巾をご供養しました。聖人はそれで傷の手当てをし、寒さをしのいだそうです。



日蓮聖人が避難された御岩屋(左)、右奥は本堂。

「綿帽子の霊跡」と呼ばれるのはこうした伝承からです。境内には実際、聖人が隠れたとされる洞窟(御岩屋)、傷洗いの井戸などがあります。私が最初に訪ねた時は、境内にほかに人影はなく、本当に静まり返っていました。御岩屋の前にたたずむと日蓮聖人の息遣いが聞こえてきそうな気がしました。

本堂の横にある庫裏を訪ねましたが、だれも出てきません。「このような山中に暮らすのは、やはり大変なのだろう」と私は勝手に解釈をしてお寺を後にしました。後日、お寺に電話をしてみると、「ふだんは不在にしていることが多いのです。はるばるお参りしていただいたのですから、御首題はお送りしてさしあげましょう」と話してくれました。

「なんて親切なのだろう!」。自宅に届いた御首題を見て、感激したの言うまでもありません。

(平山 徹・新聞記者)





## 寺の動き

### 新年祈祷会に二百五十人

新年祈祷会が一月一日から三日まで開かれ、新年最初の行事として檀信徒の皆様には、すっかり親しまれている行事です。大晦日の午後十一時ごろから参詣者が訪れ始め、ご祈祷は元日午前零時の時報に合わせて始まりまし。未明の午前三時ごろまで続けられ、いったん終了した後、午前八時から再び始めました。三日間で訪れた参詣者は約二百五十人にのぼりました。ご祈祷を終えると、藤井住職から参詣者一人一人にお屠蘇が振る舞われました。客間では檀信徒さん同士が近況を報告し合う姿もみられ、交流を深めました。

### 中山法華経寺などを団参

身延別院の檀信徒さんが一月六日、千葉県市川市の大本山・中山法華経寺と、東京都杉並区の本山・堀之内妙法寺を参拝に訪れました。参加したのは藤井住職、藤井教祥副住職をはじめ檀信徒さんら計二十二名。中山法華経寺で一行は荒行堂を訪れ、荒行堂の行僧から新春のご祈祷を受けました。続いて市川市の総武霊園を訪

れ、身延別院開山で身延山久遠寺第七十三世法主の文明院日薩上人と、身延別院初代住職で身延山久遠寺第八十六世法主の藤井日静上人のお墓参りをしました。この後、妙法寺に移動した一行は祖師堂でご開帳を受けました。さらに嶋田日新山主にお目通りし、一人一人がお経頂戴を受けました。

### 追儺式の豆入れ奉仕

身延別院の檀信徒の皆さんが一月十九日、二十



地下ホールで行われた節分の豆入れ。

日、追儺式(豆まき)に用いる豆の袋詰めに取り組みました。一般家庭ではそのまま家の内外にまいてしまう豆ですが、身延別院ではまかれた豆を参詣者が持ち帰れるように、小さなビニールの袋に詰めています。豆入れは二日間にあたって地下ホールで行われました。作業は、七センチ四方ほどの小さなビニールの袋に、さかづき一杯分ほどの豆を詰め、袋の口を丁寧に折りたたんでホチキスで留めていくものです。七分ものたくさんの豆を小さな袋に詰めていく作業は、なかなか根気が必要としますが、檀信徒さんたちは近況を語り合うなど会話を弾ませながら、手分けして進めていました(参加いただいたのは以下の皆さんです)。

林好江、阿久津喜美子、田中ゆうき、寺久保トシ子、石渡日出子、相羽泰則、北村孝子、小林克三、小林聡子、上遠野美津子、石田光子、龍佑企子、橋本國孝、橋本慶子、平山徹、埴多賀子、岡田泰蔵、工藤祐子、藤井孝子(敬称略)。

皆さん、ありがとうございました。



## 身延別院青年会に会員次々

昨年六月に発足した身延別院青年会に、新たに5人の会員が入会されました。現在、会員は二十二歳から三十二歳までの十五人になりました。青年会は檀信徒の息子さん、娘さん、有志の若手信徒で構成され、身延別院で

### ？一質問

先祖供養や年回などでお塔婆を建てるのはどういう意味があるのですか。またそもそも、お塔婆とは何でしょうか。

### 💡一答え

まず、お塔婆とは何かということからお答えしましょう。現在は普通に「お塔婆」といっていますが、この言葉は「塔婆」に丁寧の意味を表す「お」を付けたものです。そして「塔婆」は「卒塔婆」の略語です。「卒塔婆」は「率塔婆」とも「卒都婆」とも書いたりします。なぜならもともとインドのサンスクリット語の「ストウーパ」を中国で音で表記したものであったからです。ストウーパは元来お釈迦様の遺骨を祀るための廟で、今でもインドではサンチーなどに高さ十六メートル、直径三十六メートルもの大きな土饅頭形のストウーパが遺っています。つまり仏舎利塔のことをストウーパというのですが、遺骨だけでなく、仏様の髪の毛や遺物を祀ったストウーパもあります。このストウーパが中国に仏教とともに入ってきて、「卒塔婆」と音写されたのです。単に「塔」とも表されますから、仏教で「塔」とつくものは、ほとんどストウーパといってもよいでしょう(遺骨を祀らないで、経巻など

## 仏教何でも質問箱



お塔婆ってなに？

月に一、二回の例会を開いています。青年会としてどんなテーマに取り組んでいくか意見交換を重ねながら、お寺の行事やその準備に積極的に参加しています。引き続き新しい仲間を募集しています。関心のある方はどうぞご参加ください。

を中に祀るものはチャイトヤといえます)。ですから、三重塔であろうが五重塔であろうが、みん本来は仏舎利をお祀りする塔廟なのです。

中国に入ったストウーパは、石や土ばかりでなくて木造でも造られるようになりました。これが五重塔などの由来です。また、建築物だけでなく板にその形を擬するようにもなり、板塔婆が造られるようになりました。これが今、私たちがお建てしているお塔婆です。

さて、それではそのお塔婆を建てる意味は何でしょうか。それは本来、仏舎利が安置されて祀られるように、お塔婆を建てて、そこに先祖の霊や故人の霊を安置せしめ、「靈よ安かれ」と追善の祈りを捧げることなのです。『法華経』では二十八品のうち、半分以上の章で塔について言及しています。たとえば「神力品」には「若しは園中に於ても、若しは林中に於ても、若しは樹下に於ても、若しは僧坊に於ても、若しは白衣の舎に於ても、若しは殿堂に在つても、若しは山谷曠野に於ても、是の中に皆塔を起てて供養すべし」と造塔供養を勧めています。ご先祖や物故者の精霊にお塔婆を建ててご供養しましょう。



## 今後の予定

- 三月一日(土) 願満祖師お開帳
- 十七日(月) ～ 二十三日(日) 春季彼岸会
- 二十三日(日) 彼岸会施餓鬼法要 午後一時より
- 二十五日(火) 大黒天祭礼 午後二時より
- 二十九日(土) 身延山東京本願人主催信行会 午後一時より
- 三月は十三日講はありません。
- 四月一日(火) 願満祖師お開帳
- 八日(火) 花まつり 終日甘茶供養
- 十三日(日) 例月十三日講法要並法話 午後一時より

## 編集後記

寺報『願満』第二号をお届けします。強力な助力者平山さんが、新聞社のデスク交流ということで大阪支社へこの二月から行かれました。二号の大部分の準備をしておいてくれたのですが、残った原稿が遅延して刊行が今になりました。

昨年、中山荒行堂に入行した河野信成師は、行中に風邪をこじらせて肺炎を併発し、昨年十一月二十三日、退堂のやむなきに至りました。その後、自宅療養し、現在別院へ復帰のならしをしているところです。檀信徒の皆様には以前同様よろしくお願い致します。

次回発行はお盆過ぎを予定しています。どうぞご期待下さい。